

THE MUSEUM OF ART, KOCHI

KENBI LETTER

ケンビレター

no. 105
2020.spring

西洋近代美術にみる神話の世界

2020(令和2)年5月30日(土)～7月12日(日)

18世紀イタリアで活動した版画家ピラネージによる作品。

トロイア戦争の一場面「イビゲニアの犠牲」を描写した壺の胴体部分の装飾を平面に広げて版画化しました。

戦士たちの肉体、身に着ける武具や衣の表現、人物たちの上下にある装飾が古代ギリシャへのロマンをかき立てます。

「神話の世界」展では古代遺跡の発掘が進み、古代への憧れが高まった18世紀を起点にギリシャ・ローマ神話を主題とする作品群をご紹介します。

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ《同じ壺の浮き彫り部分》(『古代の壺、燐台、石碑、石棺、三脚台、ランプそして古代の装飾』より) 1778年刊行、エッチング・紙、町田市立国際版画美術館

高知県立美術館
THE MUSEUM OF ART, KOCHI

Exhibition
Information

-01

あつめてのこす
収集→保存

美術館における作品の「収集」と「保存」をテーマに、
一風変わった切り口から高知県立美術館が誇るコレクションの数々をご紹介します。

ARTISTS' INTERVIEWS

「そうだ、作品の隣にアーティストのインタビュー映像を展示したらいいんじゃない!?」そう閃いたのは、収集→保存展の構想を練っていた2019年9月頃。素材が多様化の一途を辿る現代アート作品の保存において重要とされるのが「作家との対話」、すなわちインタビューです。作品に何らかの損傷が起きる前に、予めアーティストに素材の劣化に対する対応やその将来的なケアなどについて質問し、作品の未来に備える—英国のTateをはじめ、欧米の現代アート作品を収集する美術館では広く知られた手法です。もちろんアーティストへの対応はメールや電話でも可能ですが、今回はインタビュー 자체を展覧会のなかに組み込みたい。それならば、やはりインタビューの映像が欲しい…。そんな野望(?)を抱き、早速様々な事務手続きをばたばたと進め(アポイント取り、出張準備、カメラマンの手配etc.)、作品を収蔵するアーティスト、



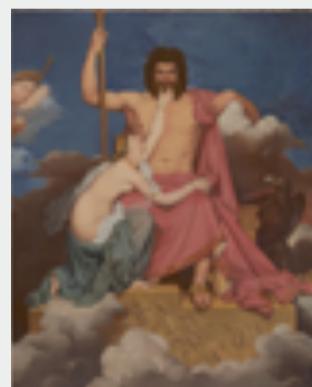
柳幸典



ギリシャ・ローマ神話の絵画を「よむ」。

ギリシャ・ローマ神話は、星座の物語や映画などで個々の神様の名前やエピソードを知っているという人も多いでしょう。ゼウスやアプロディテといった個性豊かな神々、神と人間の間に生まれた英雄たちの物語は時代・地域を超えて、西洋文化に大きな影響を与えました。

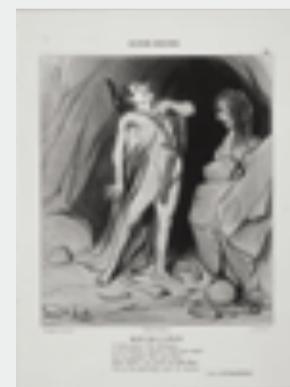
神話の典拠の一つに長編叙事詩『イリアス』があります。ホメロスによってまとめられたとされ、英雄アキレウスを主人公にトロイア戦争の数十日間の出来事を歌う『イリアス』の場面は、様々な画家たちによって描かれてきました。本展では、19世紀フランスの画家アングルと18世紀イギリスの画家フラクスマンによる同じ場面を描いた作品が展示されます。登場人物はオリンポスの主神ゼウス(ローマ神話ではユピテル)と海の女神で英雄アキレウスの母であるテティス。ギリシャ軍の総司令官アガメムノンと仲違いしたアキレウスは、母からゼウスにギリシャと敵対するトロイア軍の味方についてもらうよう頼んでもらい、困ったギリシャ軍がアキレウスに助けを求めるよう仕向けました。息子に頼まれた通りにテティスがゼウスに跪いて懇願している場面です。アングルが描いた『ユピテルとテティス』では画面左にゼウスの妻ヘラが描かれ、浮気性のゼウスをにらみつけているのが印象的です。フラクスマンによる版画『アキレウスの名誉を救うようゼウスに懇願するテティス』も横に向き合ったゼウスとテティスの二人を描いています。簡潔ですが美しい線描で描かれた作品です。



ジャン=オーギュスト=ドミニク・アングル
(ユピテルとテティス) 1807-25年頃、油彩・カンヴァス
東京富士美術館



ジョン・フラクスマン『アキレウスの名誉を救うようゼウスに懇願するテティス』
(「ホメロスの『イリアス』」より) 1793年(1795年刊行)、ライントレーニング・紙
郡山市立美術館

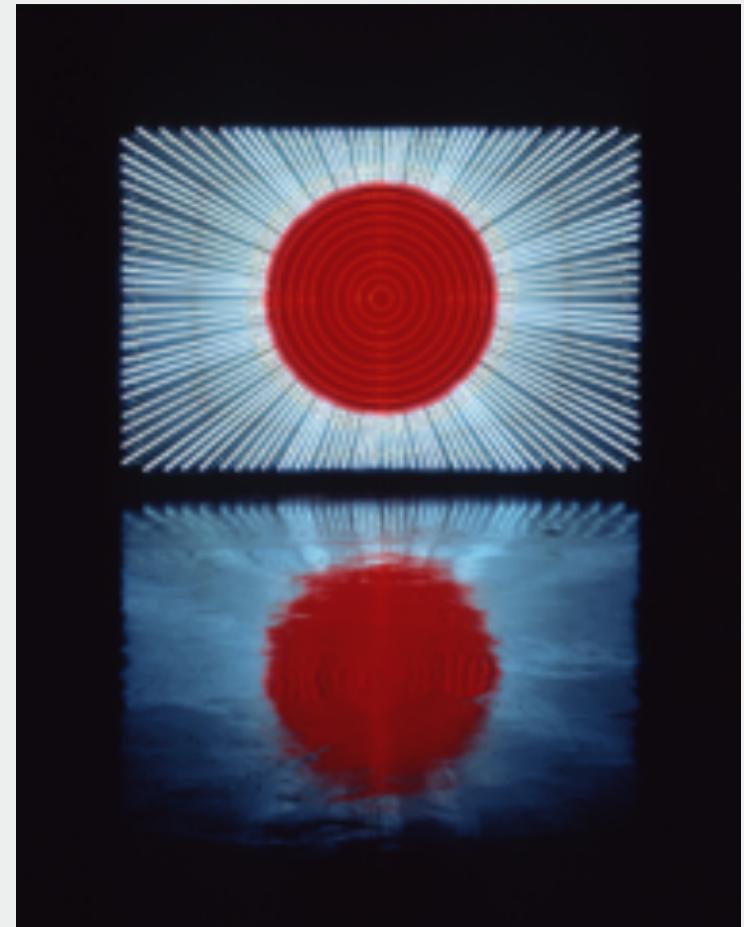


オレ・ドーミエ《スフィンクスとオイディップス》
(「古代史」より) 1842年、リトグラフ・紙
伊丹市立美術館

一方で19世紀フランスの画家ドーミエは新聞に掲載したシリーズ「古代史」においてギリシャ神話の英雄を登場人物に当時の世相を風刺しました。ドーミエの版画は明暗による表現を見ていただきたいシリーズ。『スフィンクスとオイディップス』は有名なスフィンクスの謎かけのエピソードを元にして描いています。洞窟という舞台や地面に転がる骨などの設定はそのままに、得意満面のオイディップスとスフィンクスの苦々しい顔が対照的に描かれています。

その他、ヴィクトリア朝の画家の優美な作品、ルドンによる幻想的な作品、ピカソが描いたミノタウロスの登場するエロティックな版画まで、一口に神話といっても時代によって、作家によって描き方は様々。多様な神話の世界を是非ご覧ください。

文・柳澤宏美(当館学芸員)



柳幸典《ヒノマル・イルミネーション》1992年、ネオン管、ネオン変圧器、プログラミング回路、着色したスチール
撮影:上野則宏 © Yukinori Yanagi

2020(令和2)年4月4日(土)～5月17日(日)

9:00～17:00(入場は16:30まで) 会期中無休

観覧料:一般当日600円(480円)、大学生当日400円(320円) 高校生以下無料

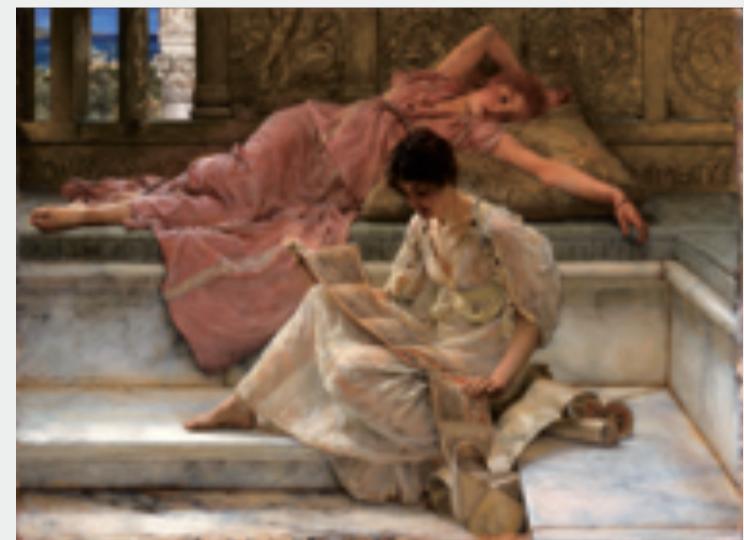
* () 内は20名以上の団体割引料金。前売り券は販売しません。*年間観覧券所持者は無料。

*身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)、

高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。

主催:高知県立美術館 後援:高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社、RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ、NHK 高知放送局、KCB 高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティFM放送

研究協力:東海大学情報技術センター、日本電子株式会社



ローレンス・アルマ=タデマ《お気に入りの詩人》1888年、油彩・パネル、リヴァプール国立美術館 レディ・リーヴァー・アート・ギャラリー
Courtesy National Museums Liverpool, Lady Lever Art Gallery

Exhibition
Information

-02

西洋近代美術にみる

神話の世界

2020(令和2)年5月30日(土)～7月12日(日)

9:00～17:00(入場は16:30まで) 会期中無休

観覧料:一般前売960円、一般当日1,200円(960円)、大学生当日850円(680円) 高校生以下無料

* () 内は20名以上の団体割引料金。*年間観覧券所持者は無料。

*身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)、

高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。

主催:高知県立美術館、KUTVテレビ高知

後援:高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社、NHK 高知放送局、KCB 高知ケーブルテレビ、エフエム高知、

高知シティFM放送 企画協力:株式会社アルティス

MUSEUM HABb INFO

美術館ホール お知らせと報告

NEWS

春の定期上映会

念願のキム・ギョン監督特集

◎2020年4月25日(土)、26日(日)、
5月2日(土)、16日(土)、17日(日)

韓国の怪物キム・ギョン監督特集が実現する運びとなった。1998年に「異魚島」「肉体の約束」「破戒」、2003年に「下女」「死んでもいい経験」を上映して以来、とまた上影を念願してきた。動き始めたきっかけは、2011年から制作が始まり2013年に公演を実施した、日韓英國際共同製作「ONE DAY, MAYBE いつか、きっと」での韓国側スタッフ、アリッサ・キム氏との出会いであった。同氏から韓国フィルムカウンシル発行の英語版監督叢書や「下女」日本語字幕付DVDを贈呈いただき、詳細な作品リストを作ることができたことが大きかった。その後アジア映画社の俞澄子氏のご尽力で、短編含め12作品の上映を実現するに至った。カンヌ国際映画祭では韓国映画で初めてパルムドールを、米アカデミー賞では英語以外の作品で初めて作品賞を受賞した「バラサイト 半地下の家族」のポン・ジュノ監督が影響を受けたと公言する、キム・ギョン監督の常軌を逸した作品世界に浸ってほしい。

文・藤田直義(当館館長)



「下女」

REPORT

高知県立美術館能楽堂にて 津野山古式神楽を舞う

◎日時:2020年1月3日(金) ◎会場:高知県立美術館能楽堂
◎出演:津野山古式神楽保存会 ◎入場者:795名

お正月恒例となりました能楽堂での神楽。3回目となる今年は、高知県高岡郡津野町に伝わる津野山古式神楽を上演しました。たくさんの方にご来場いただき、場内は終始おめでたい雰囲気に包まれていました。名産の津野山茶の振る舞いも大好評でした。文・秦泉寺なほ(当館企画事業課)



地域のアトリエ#02

石神夏希『場所から「つくる』をはじめる』

◎2019年12月14日[土] - 15日[日] ◎拠点:高知城歴史博物館
◎キュレーション:orangcosong(藤原ちから・住吉山実里)

美術館を飛び出し、私たちが暮らす街なかの、普段は見過ごしてしまいそうな「場所」を「物語」から読み直す、アートプロジェクトのワークショップとトークを行いました。講師は劇作家の石神夏希さん。大学院で研究した社会工学の視点から、街の中に渦巻く「ひと・もの・場所」のエネルギーのなかに、自ら異物として併むことで演劇的に「まち」を上演する作品を生み出してきました。ワークでは、石神さんから渡された五百円玉を、お金以外のその価値以上に変換して各々掲げたミッションに挑戦。1日目は高知の街の「ここらへん」に「ギフト」する。2日目は高知にいるはずのまだ出逢えていない「むこうがわ」の人に出逢いに街に繰り出しました。まるで仕組まれていたかのようなドラマにも遭遇! 石神さんが大切にしている「偶然に体を開く」ことで筋書きのない日常から演劇なるものを立ち上げていく密度の高い試みがなされました。

石神さんの再来時に、面白そうな何かに巻き込まれても良いよ!という奇麗な方がいましたらぜひお仲間入りください。

文・松本千鶴(当館企画事業課主幹)



関連イベント報告

ぼくとわたしと みんなの tupera tupera 絵本の世界展 絵本ライブ、サイン会、アーティスト・トーク開催!

◎2020年2月23日(日) 絵本ライブ:参加者223名 / サイン会:参加者78名

◎2020年2月24日(月・祝) アーティスト・トーク:参加者65名

休館後、久しぶりの展覧会となった本展には、小さなお子さまから高齢の方まで、幅広くご来場頂きました。今回、初めての来館「ファースト・ミュージアム」を果たされたご家族も多く、美術館や博物館に家族で足を運んで頂くきっかけになったと感じました。また、関連イベントには、全国から多数のご応募があり、作家への熱い想いを改めて実感しました。

文・長山美緒(当館主任学芸員)



かつてない規模の大移動となったアーティスト・トーク

告知_01

高知県立美術館コレクション展 没後100年 マックス・クリンガー版画展

◎前期:2020年4月2日(木)~5月6日(水・祝)

◎後期:2020年5月8日(金)~6月7日(日)

壮大な構造と緻密な筆致により、あたかもこの世のすべてを描き尽くそうとするかのようなモノクロームのイメージ。19世紀末のドイツの美術界に君臨した巨匠マックス・クリンガー(1857-1920)の版画作品は、後のシュルレアリズムや表現主義に多大な影響を与え、現代に生きる私たちをも魅了してやみません。没後100年を記念し、当館のコレクションからクリンガーの版画芸術の全貌を紹介します。

文・奥野克仁(当館学芸課長)



《死について》(作品XI) 第3版 1897年(初版は1889年)
第1葉《夜》 エッチング、アクアチント

告知_02

星加コレクション・映画ポスター展

◎2020年6月10日(水)~7月23日(木・祝)

高知市の映画研究家、星加敏文さんが長年コツコツと収集してきたポスター、チラシ、パンフレットなどの整理を昨年約半年かけて行いました。今回の展覧会ではそのコレクションの整理についてご報告するとともに、約2万8千点のコレクションの中からポスターに焦点をあて、大正から平成までの高知の映画文化を紹介します。文・天野圭悟(当館学芸課チーフ)